Gemini 4 Carbon：性能・特徴と実務活用ガイド

Google DeepMindが開発した最上位モデル「Gemini 4 Carbon」は、100万トークンの超長文脈推論とサイバー防衛能力に長けたAIです。
深い思考力を備える一方、処理遅延やコストなどの特徴があるため、日常機「Argon」や競合モデルとの適切な併用が推奨されます。

主要機能と圧倒的な優位領域

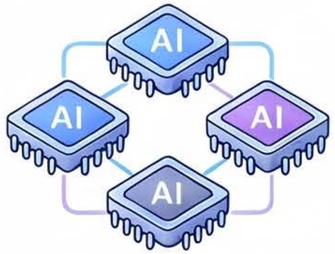
超長文脈＆サイバー防衛首位



96.2%

GraphWalksで96.2%達成。

/swarm並列開発



Carbon統括で複数AIが並列処理。

動画監査＆高い誠実性



生動画解析と高い誠実性を両立。

導入課題と最適運用戦略

応答遅延と誤答率上昇



平均25.6分

平均25.6分と知識間での誤答上昇。

思考トークンによる高コスト



思考ループでタスク費用が増大。

用途別マルチモデル運用



日常はArgon、賭間のみ本機を投入。

主要AIモデルの用途・価格・強みの視覚的比較

比較項目	Gemini 4 Carbon	Gemini 4 Argon	Claude Fable 5.2
主な想定用途	難解バグ解析・長文脈調査	日常開発・一般文章執筆	大規模リポジトリ改修
API出力単価 (100万t)	$20.00 (通常単価)	$10.00 (通常単価)	$40.00
最も際立つ強み	長文脈探索(96.2%)	高速・低コスト・低誤答	コード改修(69.9%)

Gemini Notebook